

The background features decorative curved lines in shades of blue and green. One line starts at the top right and curves downwards. Another line starts at the bottom left and curves upwards. A third line starts at the top right and curves downwards, overlapping the first one.

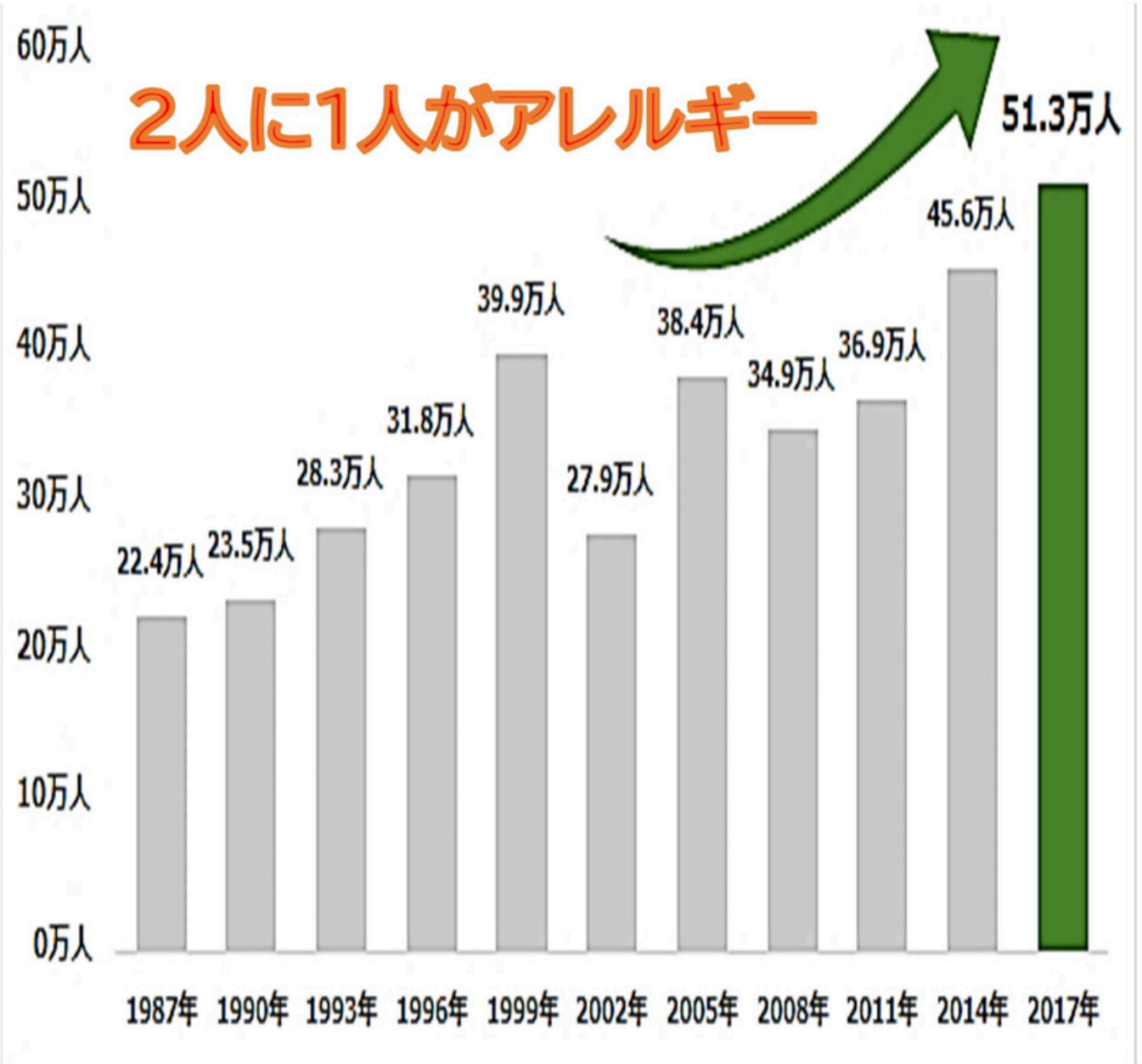
# 平常時の課題

# 事業の将来性について case3

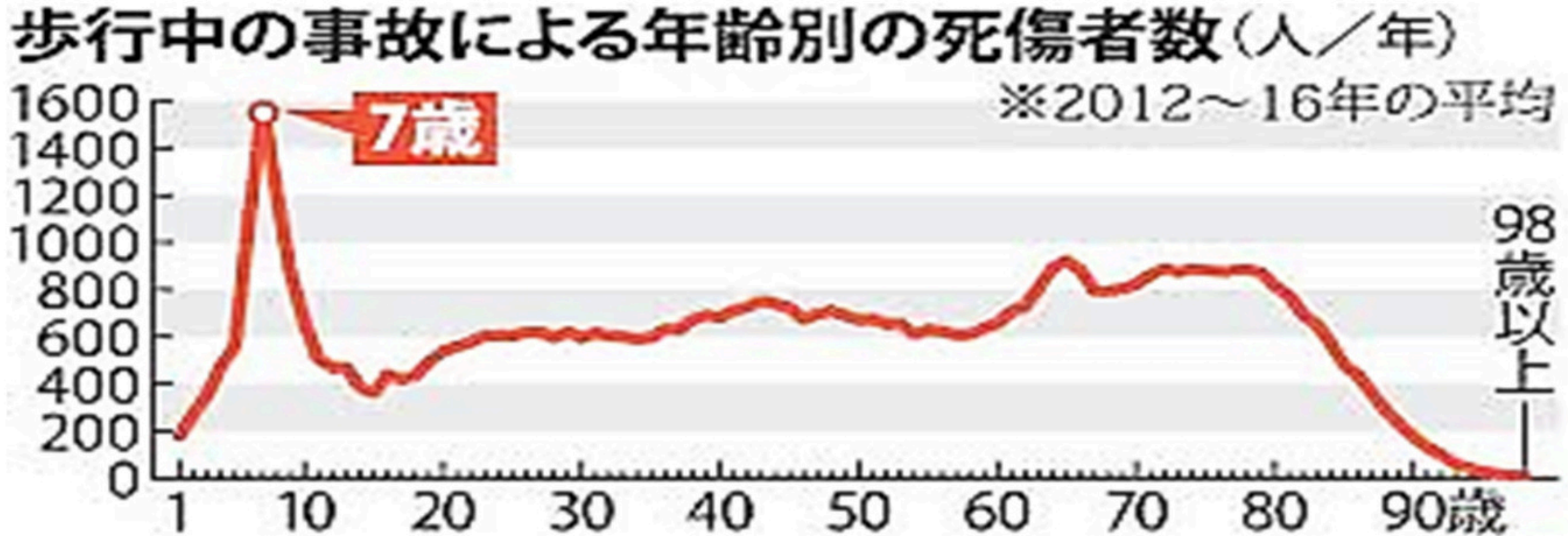
共働きが増える中、子供の傷病時のアレルギー情報は2次被害防止には欠かせない「命の情報」です。

## おや目線

7歳児に意識があったとしても正確に自分の健康情報を伝える事が難しい事から、親が子供の禁忌情報を知らせれる「ヘルスブック」は**子供の生命線**と考えられる。



## 事故のリスクが最も高いのは7歳！



参考;毎日新聞 交通事故 歩行中死傷、7歳が突出…自転車は16歳が最多より

# ● こういうお役立ちが！ ●

人定・体調情報・家族情報が  
すぐに分かる事で医療現場での

**手間削減**



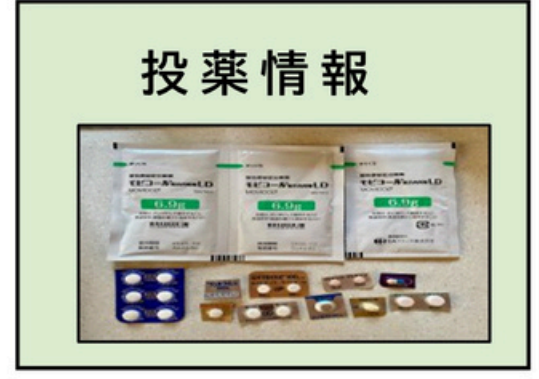
病院到着



読んだ  
レスキューノート  
情報を  
病院に渡す。



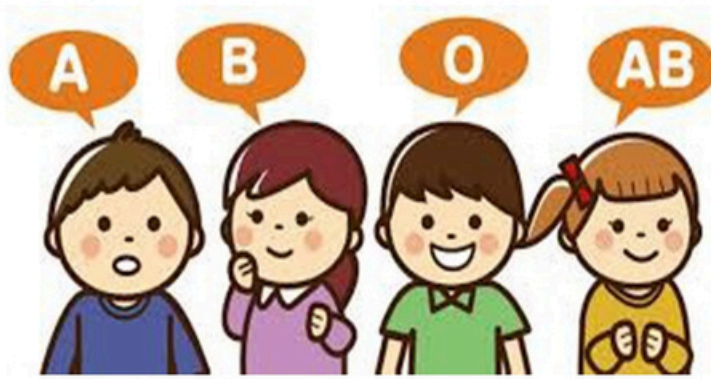
基本情報  
名前・血液型・既往症・  
アレルギーなど



体調情報・すぐに分かる事で  
医療現場での  
**治療が早く行える**

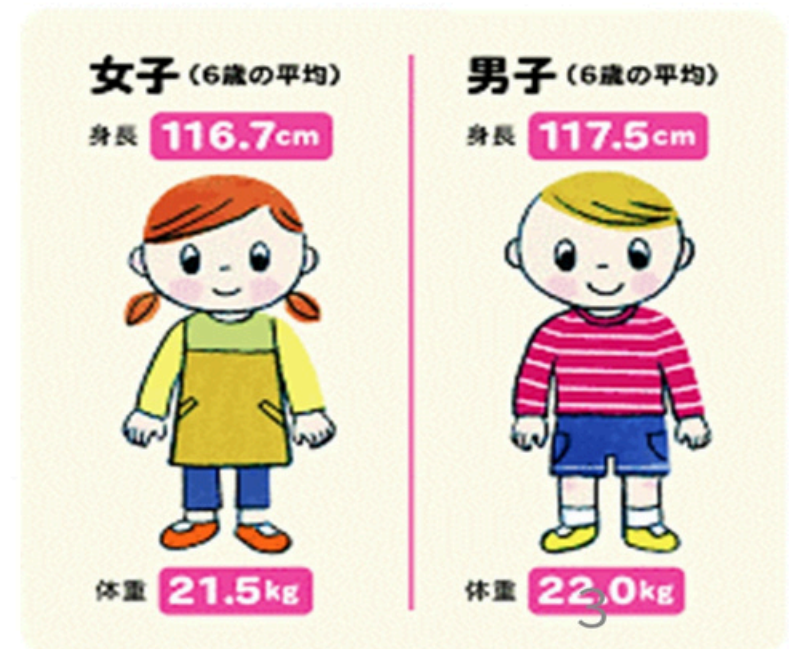


後遺症や障害のリスク軽減！



シングル・共稼ぎの親とは  
直ぐに連絡が取りずらい  
から

子供は身長と体重は  
とても大切！



## 医療・福祉・救援者側からのメリット

子供のアレルギーは今まで以上に種類が増え、小1では共稼ぎ家庭が増える時期に全世代でも7歳(新入生)が交通事故の最大数になっています。

子供が自分の病歴や薬などを正確に言える事はなく、共稼ぎ、シングル家庭などでもすぐに保護者に連絡がつかないことが多く、モンスターペアレントの被害を回避するために治療開始の時間が遅くなるケースも増えています。それにより、重症化や最悪、死亡に至る事もあります。

そして、子供だけでなく高齢者の認知症での行方不明者の増加も社会問題になっています。

持病があり投薬中の状況で事故にあうケースも多く、治療を始めるまでの「人定」「投薬」「既往歴」などの情報や検査で時間が費やされます。

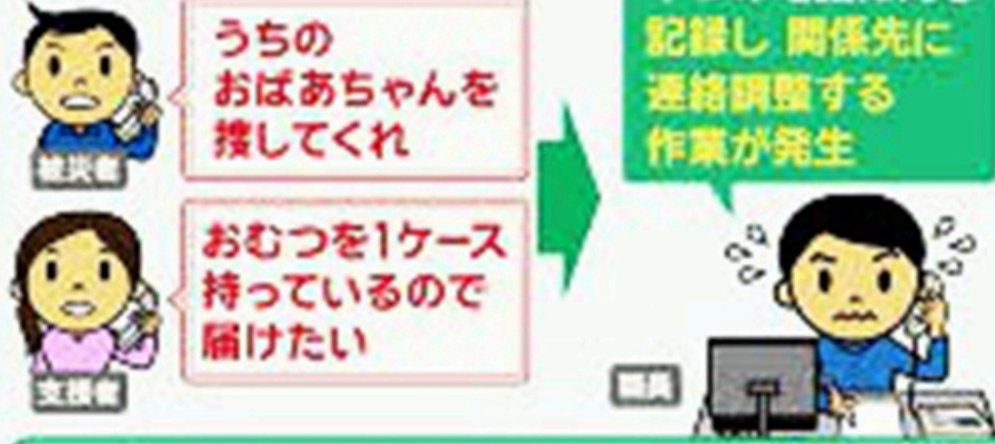
そして何より、病院のお薬以外の民間薬や生活情報(耳が聞こえにくい、歩行補助が必須など)は健康保険や国が進めているマイナンバーにも情報はありません。

が、MITEには本人同意(同意が難しい方は家族同意)の上での情報登録をしていますので、平時・災害時問わずに医療・福祉・救援者に開示できます。



# 大規模災害時の課題

## 職員の状況②災害対策本部



電話は普段の10倍以上かかってきた  
→幹部職員などが対応に忙殺される

10倍

## 災害時自治体職員の業務



通常業務と比べると  
業務量は10倍以上増

10倍

被災自治体はパニック

職員は自らも被災しながら  
やったことのない  
災害対応業務に追われ  
本来の対策に  
なかなか取り組めなかった

災害  
対口支援

熊本に応援職員を  
のべ5万3172人派遣

被災しながら  
やったことのない業務

避難所対応に7割の人員

被災直後からの最優先は避難所対応  
職員の7割が避難所対応に取られる  
非常に厳しい状況に耐えられず  
職員からだんだん表情がなくなっていき  
見ているのもつらかった



跡見学園女子大学  
鍵屋 一教授

◆災害時のシステムフロー◆ (黄色の枠内が当協会が担います)

「情報共有基盤」



# 当協会の取組は「地域連携の強化」で災害関連死0を目指しています！

## 準備①「命のカルテ」登録

災害時に「救命措置」に必要な情報のみ救助者にお知らせし、救命率を高める登録をしていただきます。

レスキューノート

山田 太郎様

ホーム / プレビュー

プレビュー

QRコードを読み込むと以下の画面が表示されます。

契約：Sプラン

戻る

緊急連絡

山口 花子

任意のメールアドレスへ送信

医療情報 更新日：2023/09/27

基本情報	
名前	山田 太郎
ふりがな	やまだ たろう
生年月日	2023年1月1日
血液型	O型
住所	〒530-0001 大阪府大阪市中央区梅田1-1-1
電話番号	090-1234-5678

アレルギー情報

特になし

病気/けがについて

全身性エリテマトーデス

かかりつけの病院

大阪市立総合医療センター  
〒534-0021  
大阪府大阪市都島区都島本通2丁目13-22  
登録番号：0123456789

顔写真

補足情報(写真)

服用中の薬

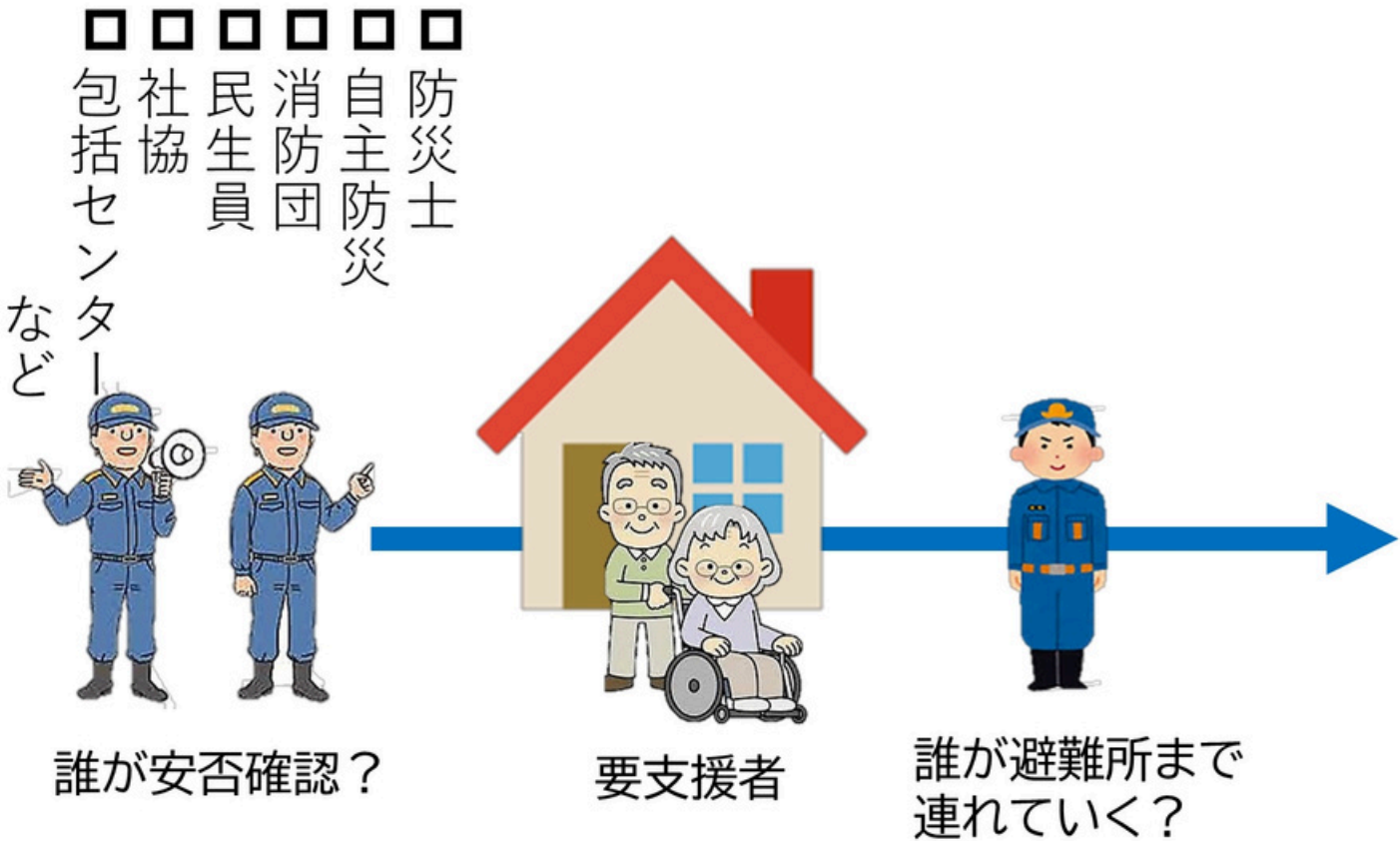
戻る

Mite提供：管理者  
問い合わせ番号：043519  
契約：Sプラン  
会員ID：01h51pbakkqkwrhg9kmex7q7h9

- ①登録される情報は本人もしくはそのご家族の同意を得て登録が行われている
- ②服薬情報には、実際に服薬されているお薬の画像やお薬手帳の画像が登録されている
- ③緊急通知（メール）の登録も可能
- ④禁忌情報など個別に「命」に関する注意事項を登録可能

## 準備② 要支援者避難計画&訓練

実際の災害と同じ想定で要支援者を含む地域連携のDX避難訓練を行う。



課題

要支援者の所在確認。  
誰が要支援者の避難を支援するのか。

2か月を1サイクルで

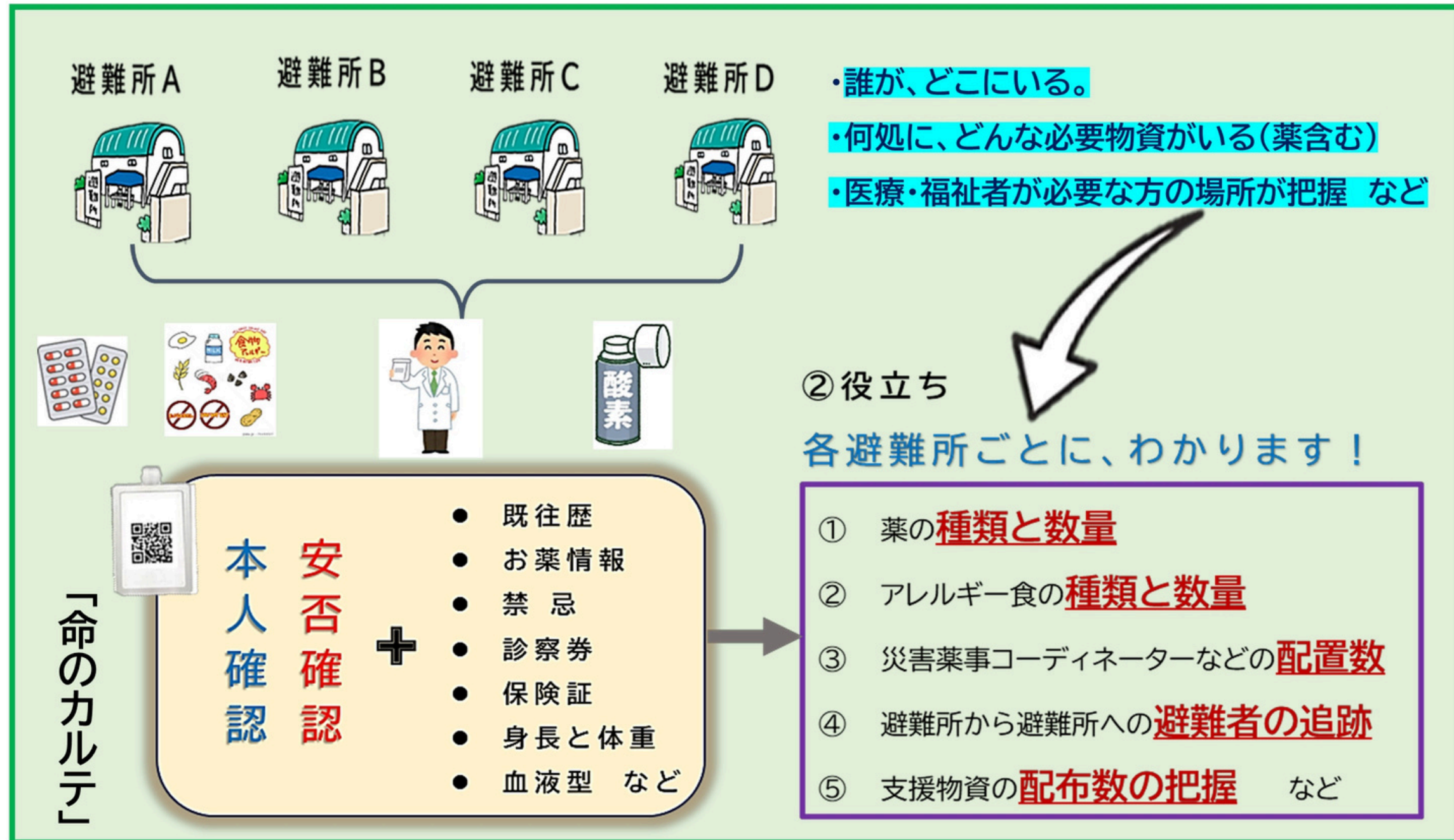
- ・1か月目は計画
- ・2か月目は訓練実行を各自治会で地域防災地域福祉・住民で行う。

避難計画・避難所での必要物資が正確にわかること以外に、ボランティア団体や支援者との情報共有が自治体とも可能になり、福祉避難所やその他の避難所・施設に移動もスムーズになります。

## 準備③ 「命のカルテ」とシステムで可能になる事

適材適所。

システムにより避難所運営がスムーズになり、関連死回避になります。



## DX消防団設立への思い

災害時には公助・共助の効果的な活動が必要不可欠です。地域防災の重要性がクローズアップされる中、地域社会が変化し共助の枠組みが希薄化していき、その重要性に反して、現実には消防団員の減少や高齢化問題が立ちはだかり、支援計画においても紙ベースで実効性の検証は進んでいないのが現実です。DX（デジタルトランスフォーメーション）は、デジタル活用によって、業務効率の向上を図るもので、防災においても、政府はデジタル活用による「防災DX」を政策方針として打ち出しており、

「地域防災のDX化」に向けては、若い世代の消防団員が必須となります。「人を守りたい」「地域に貢献したい」という学生たちを当協会員の学生・社会人ボランティア団体への入会を促し、その団体が消防団へ参画する流れを作りたいと思います。人を助けたい・護りたいと思い入会した学生や社会人ボランティアが訓練を通し、「現場」を知ることにより消防団としての重要性を感じ取って貰えると考えております。

## 地域防災・地域福祉・サポーターの訓練の必要性

社会救済を目的とし活動されている方々も昨今の災害で「地域医療・地域福祉」を支える立役者として欠かせない存在の**地域**です。日ごろから「困った」の「底」を知り活動している地域や組織の方々は、社会的に弱者の方が「今、必要なモノ・事」を知っています。しかし平時は、「子供は子供」「難病は難病」と単一で支援してる事がほとんどです。災害時は特に避難所という同じ場所に多種多様の方々が集まり現場が混乱し、自治体も対応が不十分の時に一番活躍したのは**自治会**の方々だったと石川地震でも証言を貰っています。

そして、当協会登録の**DX訓練されたサポーター**が自治体の代わりとなり情報を元に救援活動をスムーズ化してくれます。

例)被災地の介護施設から、受入れ介護施設への輸送経路での必要な対応・物資確保など

例)2次避難所内で投薬以外での生活環境を整える活動（専門医やADLへの対応など）

例)自宅避難・車中泊などの方々への日々状況で変化にも対応した正確なプッシュ支援

平時から「地域連携」が出来ている事は、情報の一元化で早急な対応が可能となり一人でも多くの「命」を救える事が可能になります。

**災害関連死を出さない取組みの一步です。**

# ●大規模災害には地域『共助』の仕組みが絶対に必要です！●

・助けが必要な人がどこにいるのか、・どんな物資をどこに届ける必要があるのか。

・支援を待ってる人の所に支援しようとしている人が迅速かつ的確にいけるのか？

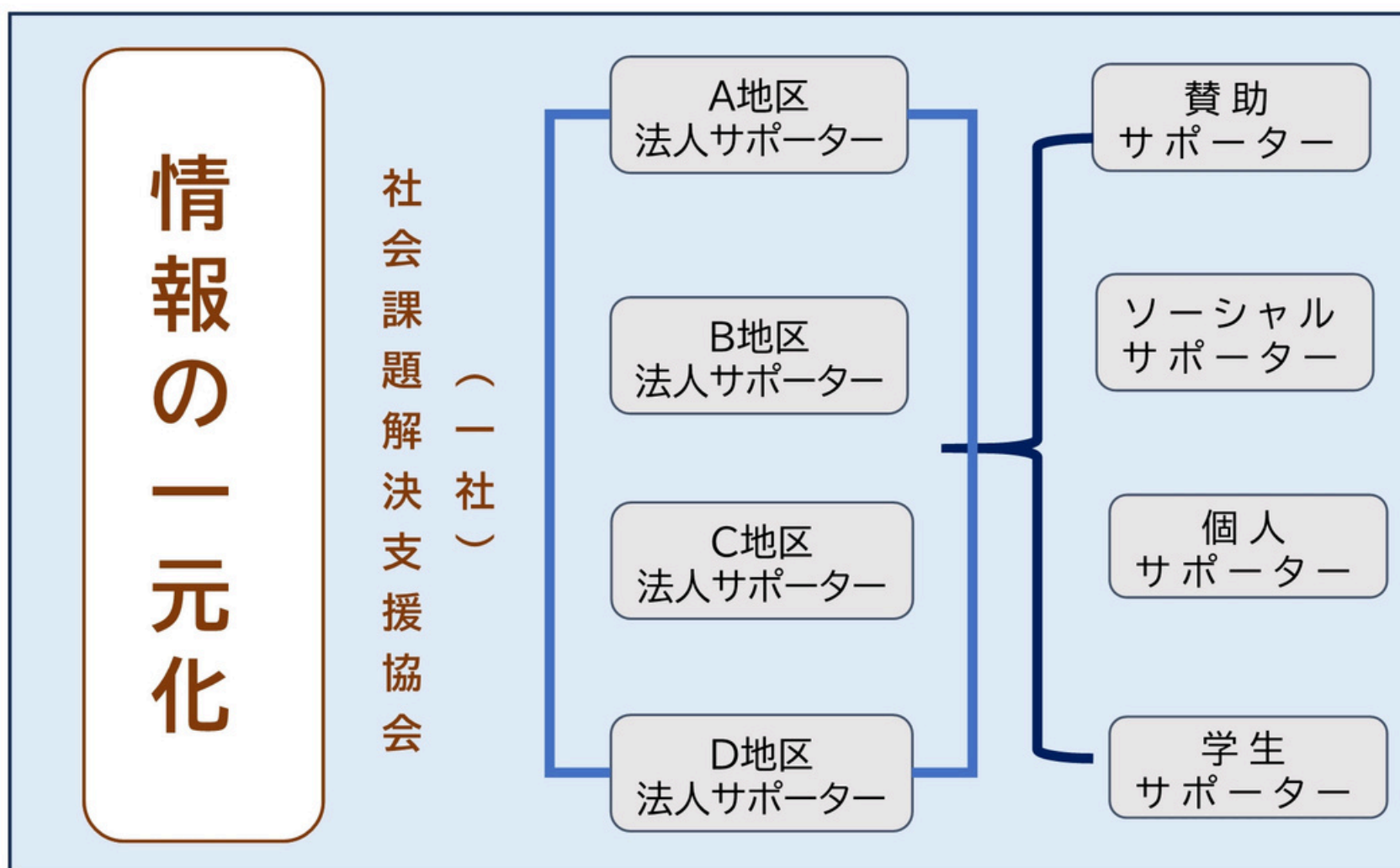
人のつながりが希薄となりがちな現代社会において、大規模災害時において「命をつなぐ」ためには地域社会での「助け合い」、「共助」の仕組みなくして成り立ちません。政府や自治体が行う「公助」を最大限に活用する為には、「公助」と「共助」のシームレスな連携が重要であり、相互の連携を促進する枠組みが必要不可欠です。

**大規模災害時や地域生活向上の支柱である「共助」を支える情報の一元化を当協会が担います！**

「住民サービス向上支援」

「災害時には被災者支援のサポート」

地  
方  
自  
治  
体



支援したい人

支援を待ってる人

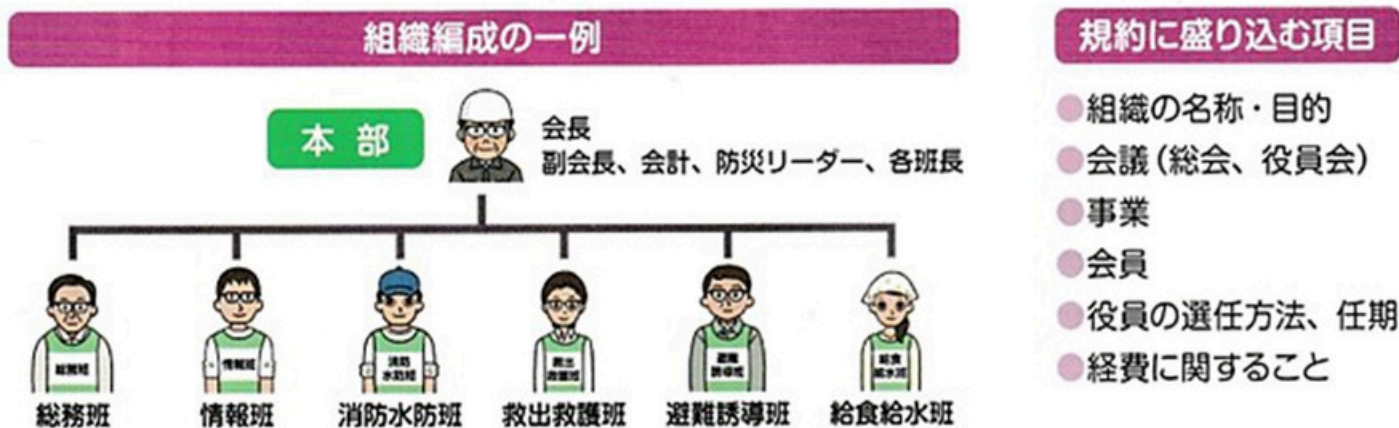
Help me!



# 自治体と協働し当協会の賛助会員・サポーター会員が災害時の支援の礎を作ります！

## ア 自主防災組織の結成

災害時に住まいの地域がどのようなリスクを抱えているのか、自分達はどのような備えをすべきなのか話し合しましょう。そして自主防災組織の組織編成や運営の規則をまとめた規約をつくり、お住まいの市町村の防災担当部局に届け出ましょう。



- 課題**
- ① 減少する**消防団員**
  - ② 高齢化する**消防団員**
  - ③ DXが苦手な世代が多い**消防団員**

**アナログ防災を  
地域サポーター登録者の力で  
防災DX化！**

**社課のサポーター登録と同時に  
消防団として登録**

## 【地域防災DX】

当協会の会員になる大学生や社会人のサポーター会員が、既存のアナログ防災をDXを取入れた計画にして訓練を行う。

**解決**

**ここが新しい!**

## ウ 個別避難計画の作成

避難行動要支援者について、いざというとき

- 誰が支援するか
- どこに避難するか
- 避難するときにどのような配慮が必要か

などについて、あらかじめ記載したものを「個別避難計画」といいます。個別避難計画は市区町村の実情に応じて、様々な方法で作成されています。



### 作成例①

ケアマネジャーなどが自治会などと連携して作成

### 作成例②

自主防災組織や民生委員などが地域主体の活動のなかで作成

### 作成例③

避難行動要支援者が家族や地域の方の支援を得て作成

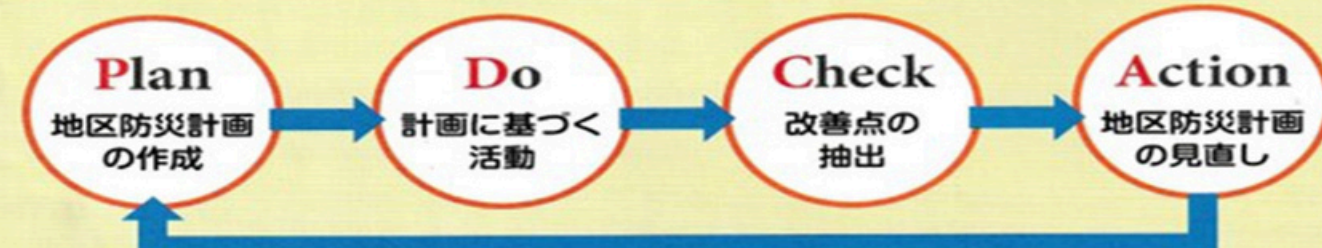
**ここが新しい!**

## イ 地区防災計画の作成

自主防災組織の年間活動計画として**地区防災計画**を作りましょう。計画に基づき活動を行い、課題や改善点を発見・検証し、次年度の地区防災計画に反映します。

※**地区防災計画**とは、地域にお住いの皆さんが、地域の人命や財産を守るための自発的な防災活動（共助）を行うための計画です。

**特徴 PDCAサイクルに基づく継続的防災活動**



地区防災計画とは、一度何かを実施して終わりではなく「計画→実施→ふりかえり」を繰り返して改善を重ねながら**長期間つづけていく**ものです。

# 5

## 要支援者の防災・避難



👉 ここが新しい!

### ア 避難行動要支援者とは

高齢者、障がい者、乳幼児などを**要配慮者**といいます。そのなかで、災害発生時などに自力で避難するのが難しく、迅速な避難をするために支援を要する方々を**避難行動要支援者**といいます。

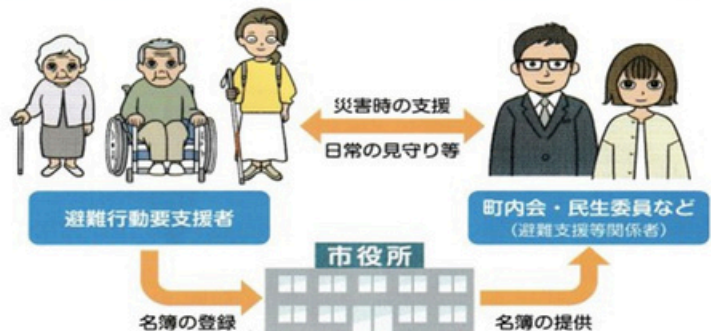


👉 ここが新しい!

### イ 避難行動要支援者名簿の作成

市区町村は、それぞれの基準を設けて避難行動要支援者の名簿を作成しています。名簿に記載された方のなかで**同意を得た方の情報は、自主防災組織や民生委員などに提供され、災害時の支援活動のほか、日常の防災・防犯活動や地域の見守り活動等に活用されています。**

※自治体ごとに運用が異なることがあります。お住いの自治体の情報を確認してください。



支援策を提案します!

地域ごとに当協会の支部を設立し、地域特性に合わせて

👉 ここが新しい!

### イ 分散避難について検討しましょう

予め災害時の安全性を確認したうえで、**指定避難所等以外の場所に避難することを「分散避難」と**いいます。指定避難所が遠いなど、お住いの地域の事情に応じて、分散避難することを検討してください。

#### 1 縁故避難

事前に了承を得たうえで、**安全な親せき宅や知人宅に避難する方法**です。

どのような災害時に避難するか避難先の家族と相談して理解を得ておきましょう。



#### 2 ホテル等避難

直面している災害に対して**安全なホテルや旅館などに避難する方法**です。ハザードマップで立地や移動ルートの**安全性について確認**しておきましょう。



#### 3 車中・テント避難

指定避難所の定員を超えている場合など、**やむを得ない場合には自家用車に避難したり、安全な場所にテントを設営して避難する方法**もあります。

車中避難の場合には、**エコノミークラス症候群に注意**が必要です。



### ウ 地域での防災訓練

地区防災計画の中に防災訓練の企画を盛り込み実施しましょう。自主防災組織の活動の助成については、住まいの市町村に相談をしましょう。

#### 実働型の訓練



👉 ここが新しい!

### エ 指定福祉避難所との連携ができる地域があります

指定福祉避難所は、指定避難所での共同生活を続けることが難しい**要配慮者のための避難施設**です。

ケアやサポートの機能低下をさけるため、災害時、避難者の受入れ調整を行います。**事前に指定福祉避難所と調整**を行い、**地区防災計画や個別避難計画に避難先として記載**している場合などでは**直接避難ができる**地域もあります。

※自治体ごとに運用が異なります。お住いの自治体の情報を確認してください。

